

各指標からみた域内経済動向

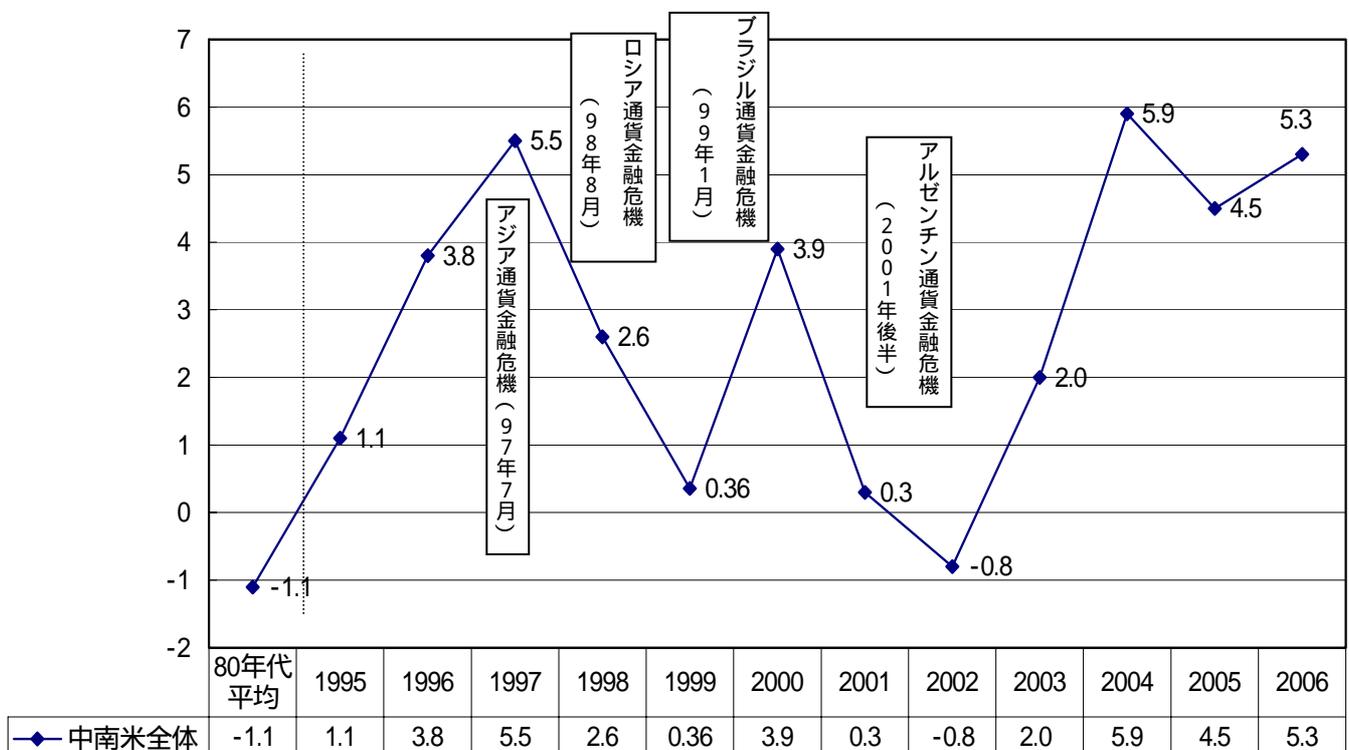
GDP成長率

1980年代、中南米諸国は、低成長率、累積債務問題等により、「失われた10年」と呼ばれる深刻な経済危機を経験。

90年代は80年代に比較して高い成長を遂げた。しかし、97年以降は、アジア、ロシアの通貨金融危機の影響により成長率は低下した。その後も米国経済の失速や、2001年後半のアルゼンチン等における金融危機の発生を受け2000年を除き成長率は低迷。

2003年以降、内需の増加と世界経済の確実な回復により、回復傾向にある。

中南米のGDP成長率

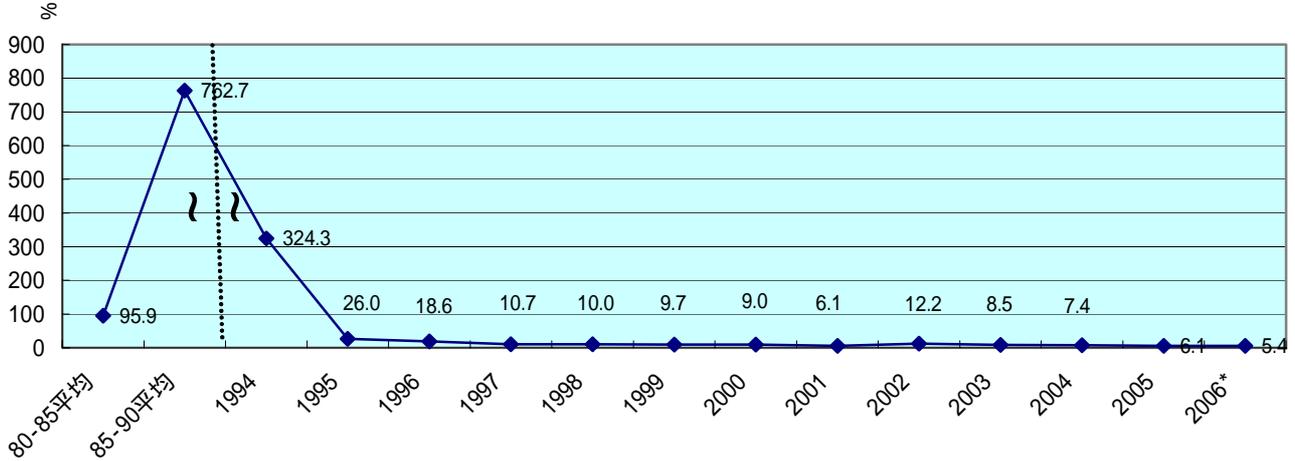


出典：ECLAC Anuario estadístico de América Latina y el Caribe 2006
80年代数値については Economic and Social Progress in Latin America, IDB

インフレ率

90年代後半の推移は、「失われた80年代」とは好対照に低インフレ率を実現。各国で差はあるものの、特に97年以降は安定的に推移している。

中南米全体のインフレ率

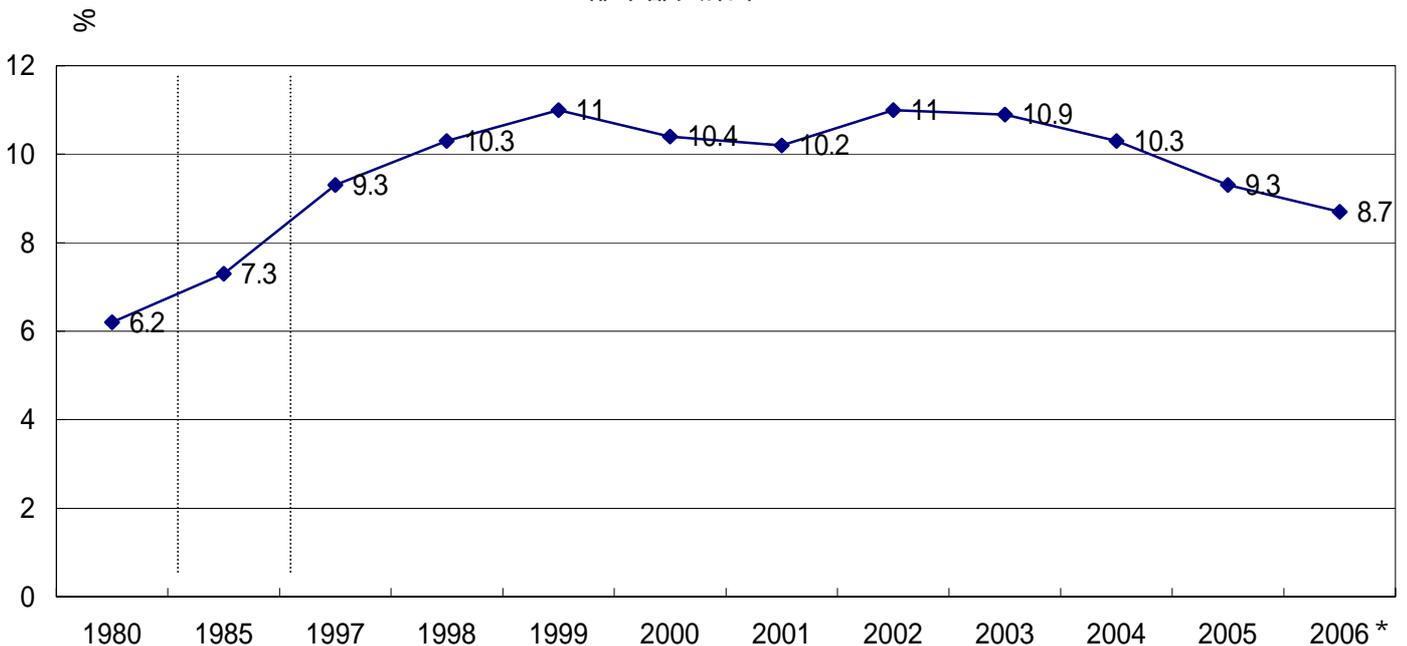


出典：ECLAC Economic Survey of Latin America and the Caribbean 2005-2006
80年代数値については The Economic Experience of the Last Fifteen Years, ECLAC
2006年は予測値

失業率

90年代以降は、80年代と比べ、経済成長率は高く、インフレ率は低くなる等マクロ経済指標は改善する一方で、都市部失業率は悪化傾向にある。

都市部失業率



出典：ECLAC Balance preliminar de las economías de América Latina y el Caribe 2006
*2006年は予測値